

十二月十五日

七時起床。上海Gスタジオ初日。晴だが薄く高い雲がかかっている。部屋は暖房がきているので、外の気温は解らない。八時前五〇メートル位はなれたレストランへ。簡素なセルフサービスの食事。学食の小振りなものだな。同済大学は上海市内の広大な大学でまだ全体はつかめない。頭の傷は、鏡を見たら、もうほとんど跡も消えていた。あの大騒ぎは何だったのだろうか。ともあれ今朝からの上海Gスタジオは手を抜かずに精一杯努力しよう。十日以上酒を一滴も飲んでいないので体調は素晴らしく良い。でも、酒はやめられないだろうな。九時大型バスに参加者四十一名+先生その他同乗して、スタジオへ。交通が問題だな。渋滞は東京同様。スタジオ着、即日課題の説明及び上海スタジオのプログラム説明。今日のスケジュール説明。その後Bundへ。上海を代表する独特のエリアで、大河とハイライズビルディングのシルエットそして上海の面影がミックスしている。ブードン地区のハイライズ群をバスで廻って上海国立ミュージアムへ。十一時五〇分。一時間見学して、スタジオに戻る。十三時半。只今十四時一〇分昼食のスタジオ手製の本格ラーメンを喰べて一息入れている。フランスの雑誌が私の建築の取材に訪れる。

上海ミュージアムは李祖原が言う通り一Fの青銅器の室が素晴らしい。BC十八世紀 十六世紀の酒器を幾つかスケッチして時を忘れた。夏代晩期のモノだ。古代人は死者と共に、そして動物

と共に生きていたのが良く解る。酒器は足が生え、カタツムリの如き目玉まで作り込んであり、ショーケースの中で、今にも動きだしそうな形態をしていて、驚いた。日本古代の土偶にも似た生命感がある。モダンなモノが失ってしまったモノである。

学生四十一名は二階、三階に分かれて、それぞれ席を占め作業を始めた。ワークシヨップは始まりが大事だから。七時頃にプレゼンテーションさせよう。一人五分間として二百分。三時間半のクリティークになる。

実は来年からの私のスタッフ発掘の目的もあり、一週間で目星を付けたい。ベシーの菅原からのFAXを渡される。高頭祥八が死んだらしい。伊豆松崎町の時計塔の鳥の絵の作者である。十五時上海TVタワーと夏代(BC十八世紀)のブロンズスカルプチャー(飲酒器)のフォルムに触発されて、タワーの再生計画のアイデアが生まれる。アイデアスケッチ六枚プラス三点のスケッチにまとめる。上海のメディアに発表するチャンスを作ってみよう。二〇日に中国雑誌及び建築家達のインタビューの予定はいる。十七時前、作業終了。小休。学生達もそれぞれの作業を進めているようだ。

場所が変わるとスケッチも代わる。という事は人間の考え方は場所(時間を含めた)によって随分左右されるのだな。十八時半、J・グライタースタジオに到着。ベルリン・ウイーン・ナリタ経由のロングトリップである。十九時、四十一名の学生の一課課題の講評。上海バンドリバーサイドに君自身のシヨールームをデザインせよ、の課題。作品の質のバラツキが大きい。何人かのモノは大変良い質を持っている。バウハウス大学のデービット、早大の三年生三名位が目立った。二十二時過講評終了。最後に私のアイデアのプレゼンテーションをやって、初日の作業の全てを終えた。

李祖原、グラライター、共にナイスクリティーク。お茶を飲んで、余りの空腹の為夜食へ。夕食抜きだったからね。私は食事制限を言われているので、酒は飲まず、スープとラーメンと野菜のみ。大食であった自分が信じられぬ位の小食である。十二時過宿舍に戻る。幾つかFAXが入っていた。室内セラエック。一時修了。今日は私も一つプロジェクトを仕上げたので、マ、充実していた。一時よりそれぞれの学生の次の課題を作る。一時四〇分修了。

十二月十六日

上海Gスタジオ、二日目。まだ二日目とは思えぬ位に昨日は沢山の事があつた。七時十五分起床。上海の空は今日もクリアアではないが天気は晴。今日も昨日作った私の上海プロジェクトを進める為のチームを特別に作る。他に三つのチームを作り、共同設計とする。

八時朝食。李、グラライターと共に、九時同済大学へ。常青、建築系主任教授レクチャー。同済大学レクチャールームにて。中国建築の文化的ルーツに関して。上海のハイライズビルディングのスタイルはパゴタ（ストウパー）のスタイルと関連があるという。いかにも中国人らしい説が興味深かつた。十一時半迄、レクチャーの後の質疑応答が続いた。十二時過、スタジオGへ。昼食はカレーメン。今日は穏やかな日和で気持ちものんびりしている。十三時チーム作り。李祖原チームはハイライズ・コンプレックス。グラライターチームは上海テーマパーク。石山チームは上海のシルエット研究、及び上海Gスタジオ。十五時チリから来たアベル・エラソに喰い下がられ少々往生する。上海周辺で仕事を待たら、登さんの、この大きなスタジオの一角を使わせて頂く事にしたい。二、三学生の相談に乗り、十八時頃スタジオ発。登さん宅でのデ

イナー招待を受け、李、グラライターと共にBund沿いの家にかがう。旧日本大使館の四階建の建築（いわゆる洋館）の四階と三階のフロアーを一部住宅に改装している。ぜい沢と言え、これ程のぜい沢はない。日本の建築家が設計したと言うが誰だろう。上海TV塔から、川沿いの旧市街まで、名高い上海の夜景を一望の許にしている。インテリア・デザインはこれ程の事が可能な位に、もうかるのかと思つた。上海ガニをごち走になつたが、私は少々ひかえ目にした。九名程の会食だつたが李と私を除いて、皆良く喰べた。中国のアンティークが、手際良く室内に置かれていて趣味は悪くない。李祖原の長男リチャードに十三年振りに再会する。もちろんすつかり大人になつて、たくましくなつていた。李の上海事務所を切り盛りしているようだ。医者から止められてはいるが仕方無い老酒を盃に四、五杯飲む。珍らしく李もつき合つた。二十三時前修了。同済大学宿舍に二十三時過戻る。外はひどく寒い。熱い風呂に久し振りに入り、洗濯、洗髪をする。記録を記して二十四時寝る。

十二月十七日

流石に今朝は寝過した。八時十五分起床。あわてて仕度して食堂へ。八時四〇分朝食をすませて、TAXIでスタジオへ。それぞれの学生がそれぞれの能力に応じて作業している。スタジオG計画グループに竹で天井を作るように指示。一本十元（カットして）日本円百三十円。で八十本購入、七名で作業させる。コレは良い成果を得た。十八時過プレゼンテーション。グループ毎に上海スタジオをセルフ・リビルドしたグループ、アベル等のプレゼンテーションが良かった。二〇時過修了。夕食はスタジオのスタッフ、李、グラライターと南国酒家で。歯の調子が悪く、あんま

り喰べられなかった。健康には良いだろう。十一時頃宿舍に戻る。FAXが幾つか入っている。室内の最終ペラ読む。よいレイアウトだ。満足。今晚は少しゆっくり本でも読もう。上海ワークシヨップは今日で三日目、良い成果が得られるかも知れぬ。学生の質は石山研メンバーを相当数参加させているので、これ迄のワークシヨップとは格段に良質になっている筈だ。どうか。

十二月十八日

七時起床。又、小眠。八時半再起床。九時食堂で食事。おかげだけ。タクシーでスタジオへ。学生が一人増えて、総勢四十二名になった。上海の四十五人乗りのバスに丁度一台分である。来夏は総勢百名のワークシヨップとしたい。この状況ならば可能である。十時スタジオ着。十名程の学生の課題を決める。それぞれの学生の力量に応じてオリエンテーションする。デービッドと早大3年の優秀な奴等のコンビネーショングループのプレゼンテーション、十時から。面白いプレゼであったので、グライターも李も、上機嫌でクリティーク。このデザインエリート・グループは明日解体させて、個々に戻す。十二時前、広東在住の浅野氏イトン工場(?)の女性二人伴ってスタジオに来る。李、グライターと一時間程のドライブで工場へ。上海東方の工場地帯である。イトン工場は極めてラフなものであったが、値段は人件費の安さから競争力のあるものになっているようだ。技術的には見るべきものは少なかった。配島工業の社長一行とすれ違つようにして、ギリギリ五分程会った。十六時過、南京西路の李祖原事務所を訪ねる。上海の一等地の、自作の高層ビルを対岸に眺められるビルのフロアーに構えていた。いかにも李らしい。マネージャー、スタッフの幾たりかを紹介される。リチャードとも会った。二〇年前の台

北の彼の事務所をほうふつとさせた。これから中国全土を制圧してゆくのだろうか。紙コップのコーヒーを飲んで、すぐに再び町に出る。低層のコロニアル・スタイルの住居群を見て廻る。非常に独特な感じの建築群で、ノスタルジックな上海らしさを初めて感じる事が出来た。ハイウェイを走っている時に感得するハイライズ群のシルエットの上海と、この低層上海コロニアル・スタイル住居群の相克は実に面白い。又、デザインの質も良いモノがある。しばらく歩いて、楽しむ。その後、上海の原宿通りみたいな(スケールは全く違って、こちらの方が勿論大きい)通りを車で走り、最も今、話題だと言う、古い建築を生かした、コマーション・コンプレックスの一角を訪ねる。恵比寿の巨大な奴だ。東京のこの側面での成果はすでに上海に追い抜かれているのを実感する。これならば、上海で仕事をした方がいいじゃないか、特にコマーションな物件は。日本料理店、回転寿司、その他日本のモノも数多く見られて、東京には見られぬアナキーさがあつて良い。夕食の時間まで時間があるので、一軒のBarに入り、白ワインを飲んでしまった。イケナイ、イケナイ。アンと合流して中華料理の夕食。これはおいしかった。特にナマコのでっかいのがいた。ちよつと喰べ過ぎたか。三十九度の強い中国酒も小さい盃に二杯飲んだ。中国で節酒、節食は非常に難しいのは当然だが、意志が弱いんだよな。十時前修了。学生にと思い、大量に残つた食事を全て、ケータリングしてもらつた。十時二〇分宿舍に戻る。明日はスタジオにゆっくり滞在して、上海計画をデザインしよう。

十二月十九日

七時十五分起床。レースのカーテンが揺れている。すき間風が吹き込んでいます。スチールサッシの出窓で、ガラスが割れている

ので無理も無い。今日は土曜日か。早稲田大学内、佐賀、プノンペン、キルティプールとワークシヨップの場所は放浪している。上海は何カリアリティがありそうだ。私にとっても負担が少ないし、李祖原グループとのコミュニケーションもより得られそうに思う。思えば李との付き合いも二〇年以上になるな。八時十五分、宿舍ロビーへ。八時半朝食。セロテープで歯がグラグラしているのを止めて、飯を喰うのだから容易ではない。九時TAXIをつかまえて、スタジオへ。道が混雑していて約一時間かかってしまふ。TAXI代は安くて助かる。学生達もそれ程の負担にはならぬだろう。十時半より李祖原レクチャー。上海周辺のプロジェクトに関して。学生から沢山質問が出て良かった。石山グループ、上海研究G、スタジオG計画、セルフビルド・イン上海Gの相談に乗る。優秀な学生の指導は楽しい。昼はスタジオ・オーナーの配慮でギョーザ作り大会。学生全員、私もライターも、ギョーザ作りに参加、面白い。昼食はそのギョーザとダイコン(?)野菜スープ。コレが実に美味であつた。午後は上海研究グループにファルス上海ガイドブックを作るようにアドヴァイス。彼等なら出来るだろう。能力のある人材には高度な事を課さなければいけない。この課題は実際に本にしてみようと思う。十六時過藤森研の白さんが、飛んできて、下にポリスが来ていると言う。何だ何だと降りてみれば上海ポリスマンが七、八人制服姿でモノモノしい。外国人が沢山出入りしていて怪しい、と踏み込んできたらしい。事情を説明して納得してもらい、握手してお引取り願つた。気をゆるめてはいけない。異なる政治体制なのだから、日本に居るように、ボケていたら危ないのだ。十八時ディナーの為にスタジオを出る。李が案内してくれるレストランはいずれも素晴らしい。今日はヨーロッパ風の中華料理で、歯の具合は良くなかつたが、

それでも大変美味であつた。私と李は酒を飲まないの、どうしてもライターが一人で飲む羽目になり、体に負担をかけてしまふ。お金はどうしても李が払わせない。彼は明日の午後から陽明山(我眉山)の頂上の寺院のプレゼンテーションで二日不在なので、帰ったら、難波さんと一緒に私がディナーに招待しよう。かと言つて、どのレストランが美味しいのか、皆目見当がつかぬ。二十二時前、夕食了。二十二時半頃、同済大学宿舍に戻る。今日は早かつた。風呂にとっぷりとつかり、洗濯をする。二十三時半ベツトに入る。今日で「仏教が好き」読みおえてしまふ。

十二月二〇日

上海に来て一週間になる。七時半起床。どうも体がすつきりしない。気温の変化についてゆけぬ感あり。今日も一日楽しくやろう。今日から劉建輝の「魔都上海」読み始める。八時半ロビー。食堂へ。九時TAXIでスタジオへ。十時半、中国雑誌インタビュー。十一時半了。十二時昼食。今日は何だか体調がベストではない。満足に喰えないのだから無理もないか。これからはズツとこんな調子なのか。食後一時間半眠る。かなりぐつすり椅子で眠つた。十五時半過スタジオG中間発表会。十九時過修了。国連ハビタに関係している二十九才の女性とボスニア・ヘルツェゴビナの支援活動をしている女性二人が今回のワークシヨップでは出色だ。アトは早大三年のデザインエリート・グループと石山研のアベル、デービット、ホセ等が水準に達している。それが一週間で明快に解つた。この人材をどう生かしてゆくか、石山研の将来を左右するかも知れぬ。二〇時、ガーデンホテル(ホテルホークラ)で広東料理。李祖原が陽明山に行つてしまったので、初めて自力でレストランを探したのだが、最悪の結果となつた。日本人

観光客が多いレストランは料理の質が実に悪い。二十二時同済大
学宿舎に戻る。カゼ気味で調子悪い。熱い風呂に入って早く眠る
う。眠るには読書が一番。

十二月二十一日

七時半起床。空腹感無し。今日は難波先生が上海に来る。初め
ての上海スタジオであったから、何が起るか解らない。それが少
し不安で磯崎さんにも鈴木さんにも、正式には来上海を依頼しな
かった。兩人共に何かこちらでして頂く仕事を作らねばなら
ぬと考えたからでもあるが、難波さんには甘えさせていた
しかし、中国で何かやるのに李祖原とライターそして日本人の
組み合わせは仲々に良いのも解った。上海へのドイツの入り方は
尋常ではない。八時半ロビー、食堂へ。今朝は少し食べた。九時
半スタジオ。学生達の相談に乗る。自分の進路も決められぬよう
な学生の相談は困難である。泣き出す奴がいてあきれ果てる。学
生の知的階層性は明白になっている。が、気力も知性に含まれる
からナア。私のところの四年生に馬鹿が多いのは困った。十三
時過難波先生スタジオに到着。十四時過、昼食へ。上海市新天地
総店、百草伝奇。あてずっぽうに入ったところだが、これはおい
しかった。スタジオに戻り、休む。夕食は登先生を招待して天平
路の吉土酒楼へ。李祖原に連れてきてもらったところ。再びなま
このデツカイ奴を頼む。難波さん、良く喰べていた。二十二時同
済大学宿舎に戻る。アト、私が上海に居られるのは残すところ、
三日となった。明日、午前中にスケジュールを伝える。明日は、
十時半に難波さんのレクチャー。十八時半に登先生レクチャー、
二〇時石山レクチャーの予定。J・グライターのレクチャーは二
十三日十八時半同済大学とする。ファイナル・クリティークは二

十四日八時〜十三時迄とする。明日は食事を少し控えなくては。
中に入り込まなくては上海も面白くない。中と言うのは勿論、
人間関係の壁の中という事。

十二月二十二日

七時四十五分起床。八時半ロビー。スタジオ十時前。難波先生
レクチャー十時半。サステイナブルな箱の家。建築の四層構造の
自説から始めて、百例になんなんとする箱の家の事例を引きなが
らの講義であった。積み重ねの迫力が出てきているナア。学生か
らも先生達からも沢山の質問が出た。十二時半、弁当を喰べて、
十四時、上海博物館に再び、難波さんと出掛ける。青銅器の展示
がやっぱり私には群を抜いているように思えた。博物館のテー
ルームでシユークリームとコーヒー。十七時過スタジオに帰る。
上海の空は相当汚染されている。今夜のレクチャーの準備をする。
規則正しい生活をしているのだが、なんだか疲れるナアやっぱり。
百数十枚のスライドを講義用に用意していたが、五〇枚しか写せ
ない事になったので、スライドを組み直す。十八時半登先生レク
チャー、彼の仕事は彼のライフ・スタイルの外延、つまり表現に
なっていると面白。アトとインテリアの境界線にあ
る。しかし、方法的概念に対する意識がうすいように思った。趣
味の水準は高い。二〇時過、私のレクチャー。転形期の建築につ
いて、日本建築の重源様式（大仏様）についての考えを述べた。
それが二一世紀の始まりである今と重なっている事についても。
特別な日本建築の事例、場所の意味が明解に解る建築についても。
つまり、歴史的現在と、場所をリメイクする事が建築デザインの
新しい意味である事等。かなり率直に述べたのだが、学生は理解
できただろうか。二十一時半修了。二十二時、遅い夕食をとる。

二十四時前宿舎に戻る。難波さん、グライター共にかなり強い酒を呑んでいささか酔っている。私は今回も自分でも驚く程に自制している。当り前な事だけれど。ワークシヨップはあと二日を残すまでに辿り着いた。今日は三本のレクチャーを得て、充実していた。

十二月二十三日

七時半起床。上海十日目。十時Gスタジオ。午前中、李祖原に頼んで龍華寺に連れて行ってもらう。大慈大悲殿というのか、の堂の裏側に、黄色のマントをまとった観音菩薩が居て、これはマリアそのものであった。観音信仰とマリア信仰は何処かでつながっているものなのだろうか。刺激的で、コレは夢中でスケッチをした。十三時鄭時齡中国建築学会副会長、講義。日本には居ないタイプのエレガントなコスモポリタンだな、この人物は。上海の都市計画、建築計画のトップで数々の国際コンペを仕切っている。講義も実に知的にバランスがとれて、見事なものであった。十四時前修了。学生の仕事を見て廻る。十八時宿舎へ。十八時半同済大学ホールで、J・グライターの講義。「東西文化の交流点としてのテーマパーク」同済大学学生多数聴講。講義修了後、鄭先生、他とディナー。海鷗濱江観景餐廳。上海の夜景を一望の許にする。テラスの上の屋形船みたいなレストランであった。レストランのオーナーの黄永源氏は登さんの友人で十日間ズツと附合ってくれた人。食後、再び登さん宅におじゃまする。二十三時過散会。二〇〇四年の上海スタジオは周到に準備してワークシヨップの可能性を探る。

十二月二四日

六時起床。荷物をまとめて、参加者全員のチエツクアウトを済ませて食堂へ。野菜まん頭。中華風ケーキ(ゴマまん頭)。TAXIでスタジオへ。渋滞で小一時間かかる。八時過ぎ最終クリティーク。第一グループ、セルビルド・イン上海。女性二人の頑張りで仲々の水準のものが仕上がった。サンパウロ大学のマリア・セシリア・ドス・サントス教授に作品をまとめて送り、批評をもらうように指示。又、リオデジャネイロのガブリエラにも送るように指示した。良い努力に対しては良いオペレーションをしないでほならない。横浜国大の青年も、何かを得たかも知れない。第二グループは早大三のデザインエリート・グループ。まだまだ子供で、私が何を言っているのか的確につかんでいない。無理もない。まだまだ保護してやらなくてはならぬな。逸材が居るかも知れぬから、ゆっくり育てよう。パウハウス大学のデービッドが体調を壊し抜けてからやっぱり具合が悪い。第三グループは石山研の四年のましな奴等。チリから来ているアベルも含めて、スタジオG上海の再生計画に取り組ませたがまだ無理だった。しかし、エネルギーはある。他は典型的な日本の水準の学生の質を超えられていない。このスタジオG上海の中枢は教師も学生も国籍その他混成部隊である事なのだが、学生はそれに対して直観を働かせられないでいる。勿体無い。台湾から来た学生も、香港から来た学生も、うまくいっていない。昨日の会食で同済大学の建築学部長が、トップクラスは皆女学生になってしまったと言っていたが、エネルギーのある男の子は皆何処かに隠れているのだろうか。広島の木元君のプレゼンテーションにはきちんと附合っていく積りだ。十三時全ての講評を終了。李祖原、J・グライター、難波和彦先生にお礼の言葉を述べ、この大きなスタジオを好意で貸して下さった登さんに感謝の気持ちを申し上げ、上海インタ

ーナショナルGスタジオは全てを終えた。私なりに充実した十日間であった。この活動は建築として、形にして残す事は出来ない。しかし、少しづつ確信は芽生えてきている。無駄ではない。気持ちの命じるままに動こう。李祖原に送ってもらい十四時過、上海空港へ。十六時五〇分の中国国際航空CA919でNRTへ。二〇時過NRT着。難波さんと一緒にリムジンバスで新宿へ。只今二十二時四〇分京王線車中。二十三時過世田谷村に戻る。

十二月二十五日

八時半起床。世田谷村の二階から眺める風景は上海のそれとはまるで違う。空気も澄んでいて、上海と比べれば清々しいのだが、力はない。アメリカにおける南北戦争の如きが起きなければ、二十一世紀は中国の時代になるのは明白だな。上海に仕事の拠点を移しても良いかと、我ながら、とんでも無い事を考えている。井上馨、伊藤博文等の上海体験、そして高杉晋作等の維新の志士達の上海体験は、日本の明治維新に少なからぬ影響を与えた。今、上海は別の意味で我々に刺激を与える。グローバリゼーションそのものの意味をまざまざと眼に見せてくれるのだ。高杉晋作は往時上海に停泊していた数百槽の列強軍艦を目の当たりにして、危機感をつのらせた。歴史は再び繰り返しているのではなからうか。グローバリゼーションは資本の自然主義である。コレに対する一粒の種が必要だ。十時過杏林病院へ。病院へ着いて時計を見たら十二時前で、ビックリ。そうか上海東京には一時間の時差があった。私の腕時計はまだ東京時間に修正していなかった。採血、採尿して、その結果を待ちながら、二名の医師と一人の相談医と問診。良くなっているそうで、安心する。十六時前新宿。指扇の現場へ。#5朝山邸はほぼ出来上がっていた。細かいところに問題

はあるが、全体としてはマア良いだろう。洗練されているし、生命力も失ってはいない。今年の研究室の仕事ではベストだな。G Aの二川幸夫に現場から電話して、見てもらう事にした。拾いモノかも知れぬコレワ。二十一時過世田谷村に戻る。原木状態で木を使う方法はもう何回か試みるつもり。藤森照信に御礼を言わねばならんな。